

西口敏宏・辻田素子著『コミュニティー・キャピタル 中国・温州企業家ネットワークの繁栄と限界』(書評)

著者	丁可
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジア経済
巻	59
号	1
ページ	73-76
発行年	2018-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00050230

西口敏宏・辻田素子著

『コミュニティー・キャピタル——中国・温州企業家ネットワークの繁栄と限界——』

有斐閣 2016年 xix+438 ページ

てい か
丁 可

浙江省温州の人々（温州人）は、中国の高度経済成長と市場経済化の重要な担い手である。改革開放初期、「温州モデル」^(註1)は中国における農村工業化の一典型として広く注目を集めた。1990年代以降、中国沿海部には多数の産業集積や商業集積が形成されたが、大多数の集積地において、温州人企業家の存在が認められた。さらに、2000年代以降、温州人は投資家集団として国内外の市場で高いプレゼンスを示すようになっていく。

温州人企業家の強みとしては、一般的に、その強靱な社会ネットワークの存在が指摘される。2010年時点で200万人にも上る温州人が温州以外の地域でビジネス活動に携わっているといわれる。温州人ネットワークをめぐる先行研究では、その温州の地場製品の販売機能 [費・羅 1988; 駒形 2004]、情報の収集機能 [園部・大塚 2004; 丸川 2004]、そして相互扶助の機能 [王 2000] が注目されてきた。しかし、大多数の研究は一部の温州人コミュニティのみを調査対象としており、温州人ネットワークの全容、さらにネットワークのもつ理論的、一般的な含意は、十分に解明されてこなかった。

本書は、こうした温州研究の現状を突破した画期的な著作であるといえる。2人の著者は、最新のネットワーク研究の成果を取り入れながら、12年間にわたるフィールドワークで収集した膨大な情報を積み上げることによって、ヨーロッパと中国に広がる温州人ネットワークのもつ構造的特徴の解明に成功した。中国を対象とした社会科学の研究として、理論面と実証面のいずれでも大きな貢献を行った優れた著作として高く評価できる。

本書の構成は以下のとおりである。

第1章 研究アプローチと問題設定

- 第2章 理論的背景
- 第3章 最貧地域の大逆転——富豪の街、温州——
- 第4章 海外温州人コミュニティと現地社会
- 第5章 在欧の温州人企業家のネットワークとコミュニティ・キャピタル
- 第6章 在欧の温州人企業家のクラスター分析
- 第7章 在欧の温州人企業家のタイプ別ケース分析
- 第8章 在欧の非温州人企業家のネットワークとコミュニティ・キャピタル
- 第9章 福建人との比較研究——そのネットワークとコミュニティ・キャピタル——
- 第10章 結束型コミュニティの逆作用
- 第11章 より多くの個人に繁栄をもたらす社会の本質
- 補論 A 温州アパレル企業ネットワークの変遷

本書の最大の貢献は、温州人ネットワークの本質が、情報探索に優れたスモールワールド・ネットワークであることを明らかにしたことである。スモールワールド・ネットワークとは、「完全に規則的でもランダムでもないつながり方のネットワーク、つまり、大多数のノードは、規則的につながっているが、一部のつながり方にランダム性を残した」ネットワークである (41 ページ)。スモールワールド・ネットワークの特性を有する社会ネットワークは、「結びつきの強いコミュニティ凝集性を維持しながら、他方では、いくつかの触手をはるか遠くへ伸ばして、通常なら決して結びつかない遠距離のノードとも、短い経路でつながっており、全体として冗長性の少ない情報の探索、伝播、利用に適した特性をもっている」 (40 ページ)。

著者は2つのキー概念を通じて、温州企業家ネットワークのスモールワールド的な特徴を実証している。まず、温州人ネットワークの強い凝集性を説明するために、コミュニティ・キャピタルという概念を用いている。コミュニティ・キャピタルとは、「特定コミュニティにおけるメンバー間に涵養され、交換される限定的関係資本であり、彼らによってのみ有効裡に利用されうる共通の資本」を指す (2 ページ)。コミュニティ・キャピタルの重要な駆動要因のひとつとして機能しているのが、「同一

尺度の信頼」つまり「直接の知り合いでなくとも、同じコミュニティに属するメンバーであれば、基本的に自分と同じ価値観、協調性、問題解決のアプローチを有しているという前提に基づく信頼」(14ページ)である。温州人コミュニティでは、血縁・同郷縁に基づく同一尺度の信頼が高いレベルで存在しており、それゆえに、豊富なコミュニティ・キャピタルを蓄積でき、情報共有、共同経営、資金調達、婚姻関係などの面において、排他的ともいえる強い凝集性を持ち合わせるに至ったと分析されている。

一方で本書では、温州人ネットワークの優れた外部情報の探索機能を実証するために「リワイヤリング」(Rewiring)という概念が用いられている。リワイヤリングとは、ネットワークにおける情報伝達経路のつなぎ直しを指す。社会ネットワークでは、わずかなランダム・リワイヤリングを行うことによって、遠く離れた世界に住む2人の距離が劇的に近くなり、ネットワーク全体の情報伝達効率が著しく向上する。本書では、温州企業家ネットワークについて2種類のリワイヤリングの存在を指摘している(314~315ページ)。第1は温州人企業家が国境や文化圏を超えてまったく新しい市場を開拓するリワイヤリングである。第2は、在外の温州人企業家による中国各地への頻繁な商売上の「里帰り」によって実現されるリワイヤリングである。

本書ではさらに、温州人ネットワークのスマールワールド的構造を実証するために、温州企業家の類型化を行っている。具体的にみると、温州人コミュニティには、「ジャンプ型」(既存の人間関係をベースにするが、他方でまったく新たに独力で、遠方に及ぶ脱コミュニティ的な人間関係を構築する経営者)、「動き回り型」(既存の人間関係をベースにするが、適度にランダムなリワイヤリングを積極的に行う経営者)、「現状利用型」(直近の人間関係を適宜利用し、しかも、ほとんどそうした直接的な関係内にとどまったまま活動するタイプの経営者)、「自立型」(できるだけ他者を頼らず、自力で機会を開拓しようとし、対同郷人・非同郷人を問わず人間関係が乏しい経営者)という4種類の経営者が存在する(17ページ)。

本書でとりわけ注目しているのが「ジャンプ型」経営者の役割である。ジャンプ型は「環境変化に合

わせ、大胆で柔軟なリワイヤリングをすることによって人々のつながり構造を変え、効率よく情報を収集し伝播する」と指摘される(319ページ)。このリワイヤリングの役割のみに注目すると、どこのコミュニティにも似たような経営者は一定の割合で存在しており、必ずしも温州が特殊というわけではない(第8章の非温州人コミュニティの分析を参照)。しかし、温州に関してユニークであるのは、その豊かなコミュニティ・キャピタルの存在ゆえに、他地域とは異なり、ジャンプ型が孤立していないことである。彼らは「コミュニティに深く埋め込まれ、仲間の多くを占める『動き回り型』および『現状利用型』にも、遠方からの冗長性のない情報を伝えて共有し、相補的に繁栄する、特徴あるネットワーク構造を築いていた」(319ページ)と指摘される。このように本書では、「ジャンプ型」経営者という存在に焦点を当てることによって、コミュニティ・キャピタルとリワイヤリングという2つのキー概念がうまく結びつき、優れた外部探索性と強い内的凝集性を併せ持つ温州企業家ネットワークのスマールワールド的な構造が解明されている。

著者は、温州人ネットワークのこうした構造を実証するために、2004~16年の12年間に、ヨーロッパの15カ国を中心に、世界19カ国57都市で、496組織(団体)、707人にヒヤリング調査を行った。インタビュー時間は、1700時間以上に及び、インタビュー1人当たりの平均所要時間は約2.4時間に達した(25ページ)。付録の33ページに上るインタビュー・リストからも、2人の著者が本研究に注いだ熱意が伝わってくる。

著者は、フィールドワークで集めた膨大なデータをもとに、温州企業家ネットワークを定量的に把握することを試みた。前述した温州企業家の4類型はフィールドワークでの観察に基づくものであるが、本書ではさらに、在欧の温州人企業家133人に対するクラスター分析を通じてその存在を定量的にも確認している。そのために、(1)結婚相手の非同郷度、(2)出国時の親族や友人への非依存度、(3)滞在国数、(4)経験した職種・業種の数、(5)国内外の商売拠点数、(6)従業員の多様性、(7)顧客(販売先)の多様性、(8)仕入れ先の多様性、(9)同郷人とのビジネス上の付き合いの程度、(10)非同郷人とのビジネス上の付き合いの程度、という10のり

ワイヤリング能力を示す指標を用いた(154~156ページ)。さらに、温州人コミュニティの特徴を示すために、比較の対象として58人の非温州人企業家についても同様の指標を取り、比較を行っている(第8章)。両者を比較することによって、内的凝集性(結婚相手、出国時に頼りにした相手、創業期の資金調達先、共同経営相手、仕入れ先の多様性、従業員の多様性)と外部探索性(販売先の多様性、経験職種の数、滞在国数)の両方において、温州人コミュニティが優れたパフォーマンスを示していることを実証した(216~223ページ)。第9章では、さらに比較の対象として福建人コミュニティの事例を取り上げることによって、質的分析の手法でもってこの点を再確認した。

フィールドワークでの観察をハードエビデンスでもって実証する手法は、本書の随所でみられる。たとえば、著者は食事会に参加するなかで、温州人が主催する場合は他地域の経営者が主催する場合よりも、出席者の多様性、異なるタイプの経営者に接触できる範囲の広さ、といった面でのパフォーマンスがより高いことを実感したという。この点を実証するために、著者は自ら参加した温州人が主催した30回の食事会と非温州人の主催による20回の食事会に関する量的データを取得し、比較を行った。その結果、参加者の「職業数、異職業率、居住地幅」という3つの指標のいずれでも温州人グループ主催の方が統計的に有意に高いこと、すなわち温州人ネットワークは情報探索能力の面でより優れていることを明示した(202ページ)。

本書はまた、温州人コミュニティという特殊なケースに焦点を当てながら、他の国や地域への一般的な含意を導き出すことにも成功している。一般に、前近代社会は、弱い国家、脆弱な人的資本および強いコミュニティによって特徴づけられている。それに対して、近代社会では国家、市場と個人が強くなる一方、コミュニティと家族機能が次第に減退していくと考えられている[Harari 2014, 405]。しかし、本書が取り上げた温州のケースは、このような常識を大きく覆している。第1章で著者らが述べているように、学歴に象徴されるヒューマン・キャピタルの程度では温州人企業家は中国人の平均水準を下回っていたにもかかわらず、今日、温州人コミュニティは総体として突出した経済的繁栄を

誇っている(20ページ)。温州人のユニークな社会ネットワークは、「個人的な属性の総和とはまた別の次元で、優れた総合力を発揮する」のである(23ページ)。本書は、このような特殊性をもつ温州の事例を検討することによって、「平均的な能力や意欲をもつ個人が、わずかな工夫でその潜在可能性を開花させ、より優れた成果を達成し繁栄できる社会とはいかなるものか」(1ページ)というより普遍性のある問題提起を行い、これを考察している。

この問題提起は経済発展論への示唆が大きい。先行研究では、近代的経済発展の前提条件として、伝統的コミュニティに基づく人格的取引の縮小と、教育、訓練を通じた人的資本の蓄積、という2つの点が強調されてきた[Schultz 1961; North 1991; Becker 1994; Kumar and Matsusaka 2009]。しかし、温州の事例は、脆弱な人的資本と強いコミュニティという前近代的な条件を抱えている地域でも、社会ネットワークの構造次第では、近代的経済発展を遂げる可能性が十分に大きいことを示唆している。このように、温州は特殊でありながら、既存の経済発展論に対し有力なアンチテーゼを投げかけている。

特殊事例から一般的な含意を導き出すこのような手法は、コミュニティ・キャピタルに関する議論でも確認できる。温州におけるコミュニティ・キャピタルの異様な高さについて、本書は一方では、温州語という方言の特異性(第1章、注6)や温州人の「生誕直後からの(企業家として成功することこそが、人生の一大目標という)刷り込み体験」(第2章、注3)などの要素を強調している。しかしその一方で、温州人ネットワークにおいて、コミュニティ・キャピタルがどのように蓄積されたのか、というより一般性のある課題も取り上げている。温州企業家同士による商機探索のプロセスについて、著者は①情報探索と伝達・共有、②ディスカッションによる共同解釈、③仮説の集団検証、④共通知の創出による集団学習、といった「循環のプロセス」を克明に描いている(56ページ)。これは、まさにどこのコミュニティでも実践できるコミュニティ・キャピタルの効率的な蓄積方法だといえる。

本書は、制度と社会ネットワークの相互作用を理解するうえでも、示唆に富む材料を提示している。中国は市場経済への移行を始めて間もない社会であり、制度には不備な点が多い。そのため、温州では

しばらくの間、インフォーマルな血縁、同郷縁ネットワークによって制度の不備が補完されていた。たとえば、温州で盛んな民間金融は、長年、契約書等の法的な保証をとることなく、温州人同士の信頼のみによって支えられていた。しかし、2011年に発生した民間信用危機の際に、こうした信頼が大きく損なわれてしまった。すると、この対応策として民間貸借投資サービスセンターという機関が設立され、社会ネットワークを越えた制度構築が行われた(309ページ)。著者の紹介によると、民間信用危機発生後、たとえ「実の姉妹」のような親しい関係にある温州人でもこのサービスセンターを積極的に利用するようになってきているという(310ページ)。

一方で、ヨーロッパは市場経済の機能を支える諸制度がよく整備されている先進地域である。しかし興味深いことに、こうした健全な市場経済制度の下でも、コミュニティーの範囲を超えた取引相手を普遍的に信頼する、いわゆる「普遍化信頼」は、前述した4種類の経営者のなかで、ジャンプ型経営者にしか観察されていない(206, 211ページ)。

このように、制度と社会ネットワークの関係は非常に複雑である。市場経済化が進むにつれて、インフォーマルな社会ネットワークがいずれフォーマルな制度によって代替され、「普遍化信頼」が社会のすべての階層に浸透すると、社会ネットワークが制度の不備を補完するうえで永遠に機能し続けるとも、一概にはいえない。社会学の著作である本書では、進出地の制度環境よりも温州人企業家の社会ネットワークに分析の力を置いていた。今後は、制度の側面にも焦点を当てながら、両者の関係を論じる経済学的な分析が求められよう。

末筆ながら、本書の2人の著者は産業社会学と中小企業論を専門にしており、中国研究の専門家ではない。しかし、温州人ネットワークの魅力に惹かれてこの領域に参入し、10年以上の歳月をかけて、その謎の解明に取り組んだ。本書の成功は、中国という巨大な移行経済には、社会科学の豊富な素材がそろっていること、中国を対象とした優れた研究は中国理解の深化につながるだけでなく、社会科学全般に対しても大きな貢献を行いうることを有力に示唆している。

(注1) 温州モデルの特徴として、①おびたしい

数の家内工場、②「十大專業市場」、③中国各地で温州地場製品の販売に携わる10万人の温州商人、という3点がよく指摘されている。

文献リスト

〈日本語文献〉

駒形哲哉 2004. 「温州モデル研究の視角——中国経済の体制移行に寄せて——」(「小特集：移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展——『温州モデル』を中心に——」)『三田学会雑誌』96(4) 467-485.

園部哲史・大塚啓二郎 2004. 『産業発展のルーツと戦略——日中台の経験に学ぶ——』知泉書館.

丸川知雄 2004. 「温州産業集積の進化プロセス」(「小特集：移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展——『温州モデル』を中心に——」)『三田学会雑誌』96(4) 521-541.

〈中国語文献〉

費孝通・羅涵先 1998. 『郷鎮經濟比較模式』重慶出版社.
王春光 2000. 『巴黎的温州人——一个移民群体的跨社会建構行動——』江西人民出版社.

〈英語文献〉

Becker, Gary S. 1994. *Human Capital: A Theoretical and Empirical Analysis, with Special Reference to Education*. 3rd ed. Chicago: University of Chicago Press.

Harari, Yuval Noah. 2014. *Sapiens: A Brief History of Humankind*. London: Vintage Books.

Kumar, Krishna B. and John G. Matsusaka 2009. "From Families to Formal Contracts: An Approach to Development." *Journal of Development Economics* 90(1): 106-119.

North, Douglass C. 1991. "Institutions." *Journal of Economic Perspectives* 5(1): 97-112.

Schultz, Theodore W. 1961. "Investment in Human Capital." *American Economic Review* 51(1): 1-17.

(アジア経済研究所開発研究センター)